



第48号

発行所
三軒屋駐屯地協力会
三軒屋駐屯地OB会

新年のご挨拶

第31代 三軒屋駐屯地司令

2等陸佐 石嶋 孝至



新年あけましておめでとございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が引き続き猛威を振るい、諸活動が制約された一年でした。8月に駐屯地司令として着任した以降では、10月に規模を縮小した駐屯地記念行事、倉敷市での鳥インフルエンザ災害派遣などがあり、慌ただしく過ぎていきました。この間、駐屯地協力会、駐屯地OB会、各協力団体等によるご協力、駐屯部隊各隊員の活動により駐屯地が運営されました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。



我が国周辺の情勢について

は、ロシアによるウクライナ侵攻の他、中国、北朝鮮の活動が顕著であり、それらを踏まえて国家安全保障戦略等の見直し、防衛費増額に伴い、より実効性・即応性ある防衛力整備が求められています。また、大規模地震や豪雨等の自然災害、鳥インフルエンザ等へも引き続き対応していく必要があります。

このため、駐屯地として、部隊の活動基盤となる諸施設・活動を今後より充実させていく所存であります。それとともに、ここ3年ほど中止が続いていた駐屯地行事等については、感染症対策を取りつつ事業を再開させ、地域の皆様とともにある駐屯地を感じていただける年にできればと考えています。

最後に、皆様が多岐にわたるご協力をいただき、新年のご挨拶とさせていただきます。

三軒屋駐屯地協力会

会長 長峰 襄



新年明けましておめでとございます。

皆様におかれましては、ご無事にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年は、継続するコロナウイルスの感染拡大に加え、ロシアのウクライナ侵攻があり、世界は混沌の渦に巻き込まれた一年でありました。

一日も早く世界に平和が訪れることを願ってやみません。

一方、我が国を取り巻く国際環境も、北朝鮮の連続するミサイル発射、尖閣諸島周辺での中国の度重なる領海侵犯、台湾海峡有事の可能性、南シナ海での覇権の拡大、北方におけるロシアの挑発的行動等々片時も眼を離せぬ緊張が続いております。

このような状況において我が国の国防論議も活発になり、国民の自衛隊への関心と期待は一段と高まりを見せております。

今、ロシアのウクライナ侵攻で明らかになったのは、直接的戦闘能力もさることながら、継戦能力すなわち後方支援

能力の重要性でありましょう。

継戦能力の向上こそ抑止力としての要で、それは正に三軒屋駐屯地が担う各種補給業務すなわち兵站であると言えます。その意味で今後三軒屋駐屯地の果たす役割と任務はますます拡大していくものと思われまます。

三軒屋駐屯地は、昨年、石嶋新司令を迎え三年ぶりに記念行事が行われました。コロナ禍のため規模を縮小しての開催ではありましたが、Withコロナの新しい行動様式を模索しつつ行事が実施されたことは今後の方向を示されたものと思われまます。

駐屯地協力会も3年にわたるコロナ自粛環境の沈滞から起き上がり、駐屯地行事への積極的参加と支援を行いたく思っております。皆様方のご参加とご協力をお願い申し上げます。

三軒屋駐屯地OB会

会長 長川 良成

新年明けましておめでとございます。

令和5年の新しい年を迎えられ謹んでお慶びを申し上げます。

コロナウイルスもある程度取

束したかと思えばまた増加する事の繰り返しでなかなか収まる様子を見せませんが、今後も日々頑張っている人やご自身にもエールを送りつつ、予防対策と経済活動を両立させるために体を動かし健康に留意して抵抗力をつけ、いずれ来る終息に向かって気を緩めることなく、一人一人、今できる感染対策をしっかりと行っていきましょう。

さて、ロシアのウクライナ侵攻が始まってから十ヶ月が過ぎ長期化の様相を呈していますが、力による現状変更が常態化するこの暴挙は東アジアも例外ではなく、北朝鮮の増々の弾道ミサイル発射、米中摩擦激化、台湾中心の南西方面のこれまでにない圧力。いま私達は大きな歴史の転換点に立っていると言っても過言ではなく我が国の防衛力を抜本的に強化することは焦眉の急であり、各種防衛装備品、関連施設等の整備・増強の話になりますが、ハイテク装備も含めて全て人の手、オペレーターは現役自衛官になります。大変な時代ですが、くれぐれも健康に留意され任務に邁進されんことを祈ります。最後になりましたが、皆様方のご健勝とご多幸を祈念し新年のご挨拶と致します。本年も宜しくお願いいたします。

部隊長から新年のご挨拶

第305施設隊長

2等陸佐 玉置 宏行



新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては令和5年の宛年を気持ち新たに迎えられたことと思います。

旧年中は、ケニアにおける三角バートナーシッププロジェクト、北海道における実動対抗演習、種子島における西部方面隊実動演習、そして倉敷市における2例の鳥インフルエンザ災害派遣等に参加し、日本各地、世界において、それぞれの任務を完遂できたのも、コロナ禍にもかかわらず皆様の変わらぬご理解とご支援、ご協力の賜物と深く感謝いたしております。

本年も三軒屋駐屯地の一員として、駐屯地、地域、家族のために常に「構え」つつ、桃太郎とともに、皆様が安心して暮らせる日本一の施設隊を継承すべく精進していきますので、引き続きご理解とご

支援ご協力をよろしくお願いいたします。

第104施設直接支援大隊

第2直接支援隊長



1等陸尉 久保 寿幸

新年あけましておめでとうございます。

旧年中はロシアのウクライナ侵攻に始まり、見通しのきかない新型コロナウイルスの影響等大変多忙、かつ、せわしない年を過ごされたと思います。その中で第2直接支援隊に変わらぬご支援とご協力を頂きました駐屯地の皆様には大変御礼申し上げます。

本年は支援態勢を見直し、使用部隊の期待に充分に応えられるマルチロールな整備部隊を目指して整備と訓練の2軸の練成に努め、任務に邁進していく所存であります。

引き続きご理解とご協力いただければ幸いです。

引き続きご理解とご協力

引き続きご理解とご協力

引き続きご理解とご協力

第312基地通信中隊

三軒屋派遣隊長

2等陸尉 大濱 豪



新年明けましておめでとうございます

第132地区警務隊

三軒屋連絡班長

2等陸尉 横山 真



新年明けましておめでとうございます。

昨年中は警務隊に対する様々な御支援・御協力誠にありがとうございました。

本年も防犯意識の高揚や道路交通統制等警務支援をもって駐屯地に貢献できるような日々尽力してまいりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

引き続きご理解とご協力

引き続きご理解とご協力

引き続きご理解とご協力



旧陸軍墓地清掃



ございます。昨年は、方面総監 検閲受閲等、皆様のご協力・ご指導もあり無事達成することができ感謝申し上げます。

本年も隊員一人一人がシステム通信のプロとして駐屯地のために頑張っていきたいと思っております。

本年も隊員一同よろしくお願いたします。

秋の叙勲受章者紹介

おめでとうございます

三軒屋駐屯地修親会・曹友会は、12月10日岡山県 隊友会が実施する旧陸軍墓地清掃を支援した。

墓地には、第17師団創設（明治40年）以降、日中開戦初期までの戦死者分骨墓517基が埋葬されており、その後戦死者の増加等により、以降は合祀の碑に埋葬されている。

石嶋司令以下、28名のボランティア参加隊員等が集まり、手際よく作業を進め墓地は見違えるほど綺麗になり、英霊たちに喜んでいただいていることと思う。

支 処

3等陸曹 堀 和生

今回、昇任できたのは部隊の方々のおかげだと思っております。配属から今まで色々なことを教えてもらいました。一人の社会人としての仕事態度や生活態度など基礎から鍛えられた結果、人として成長でき昇任に繋がったと思います。今後は、後輩たちにも続いてほしいのでしっかりと導いていきたいです。

業務の方でも、陸曹として、また班の中心人物となって上司の命令意図を理解するとともに部下を引っ張って行けるように普段から積極的に取り組みたいと思います。

以上のことを心がけ部隊に貢献して恩返しをしていきたいと思っております。今まで以上に職務に邁進する所存であります。まだまだ若輩者なので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

父親部長(左)の陸曹優秀隊員表彰式に同伴した堀3曹(右)四面に記事掲載



施設隊
3等陸曹
栗本 拓茉

一月一日付をもって3曹に昇任することができました。私が3曹に無事昇任できたのは隊長をはじめ、各先輩方、同期、後輩、そして第4陸曹教育隊(以下陸教)の教官、助教のご指導のおかげだと心から感謝しています。

陸教では、陸曹としての責任感、知識、技能、精神力団結力など、多くのことを学びました。とくに、同期との絆です。限られた時間で係業務をしなければならぬことが多々ありましたが、同期たちと率先して助け合い、強い信頼関係が生まれました。

陸曹としてスタートしましたが、今の私はまだ知識、経験など足りていない部分があると思います。しかし、自ら学び、知識や技術を向上することができるよう日々精進していきたいです。そして、陸教で学んだことを無駄にしないようこれからの自衛隊生活に活かし、自信を持って部隊を指揮・指導できるように日々努力していきたいです。



ヘリ体験搭乗 12月3日



(上)搭乗時の説明 (下)ヘリに手を振る体験搭乗者たち。

<施設隊> 災害派遣(鳥インフルエンザ)
10月下旬~11月上旬



感染防止のために着替える隊員



<年末行事>12月16日



恒例の餅つきや豪華景品が目白押しピンゴ大会で、1年の労をねぎらいました。

令和4年度 陸上幕僚長優秀隊員招待行事

令和4年度陸上幕僚長優秀隊員招待行事が11月16日、東京の明治記念館で挙行され、支処所属の堀桂三陸曹長が招待されました。

この行事は平素より業務に寄与した隊員、訓練・災害派遣などに貢献した隊員、特に国際平和協力事業などの顕著な功績を挙げた隊員の功績を顕彰するもので、荘厳な雰囲気の中、陸上幕僚長吉田陸将から堀曹長へ顕彰状が授与されました。

堀曹長は「まずは日頃支えてくれていた妻に、そして今までの自衛隊生活に感謝しています。また、今まで地道にやってきたことをこのような形で表彰していただき、誠に光栄です。」と述べました。



顕彰状を受け取る堀曹長（手前右）



左から陸幕長、堀曹長、同伴で参加した長男 堀 和生3曹、陸幕長夫人

赤ちゃんおめでとう



15年後もパパに優しい子でいてください。

年男の抱負



施設隊 3等陸曹 石田 健一

幼少期は母子家庭で、今の父と出会った時の父の年齢が確か30歳半ばだったと思います。今年で私も36歳になりましたが、当時の父の姿と重ねてみると社会人としても父親としても、まだまだ未熟さを感じております。

そこで、今年の抱負としては、「一歩でも前へ」として、自衛官として父として何か一つでも昨年より良くしたいというの心構えで頑張ろうと思います。

自衛官としては、自分の職責を見つめ直し改善できる箇所があれば積極的に改善していき、父としては現在離れて生活をしておりますので、少しでも長く多く家族との時間が取れるように、家族の思い出を残せるように時間を有効に使えるように頑張ろうと思います。そして、長期的には昔の父の姿に少しでも追いつけるような大人になっていこうと考えております。



直支隊 3等陸曹 九野 拓郎

新年明けましておめでとうございます。今年で3回目の年男を迎えることが出来ました。無事に迎えることが出来たのも上司及び関係部隊の皆様のおかげであることに感謝申し上げます。

卯年ということで「うさぎの昼寝」や「二兎を追うものは一兎を得ず」などなかなかネガティブなことわざが多いですが、兎にも長所や良いイメージはあります。それは登り坂を走ることが得意なことやピョンピョンと駆ける姿からフットワークが軽いというイメージです。自分はその長所やイメージを存分に発揮し、どんな辛い登り坂でも油断や失敗を恐れず1つずつ確実に物事に取り組み自分自身を飛躍させていきたいと思っております。そのためにも自分だけでは視野狭窄に陥りやすいため、皆様の意見・助言を参考にして何が最良かをしっかりと考えていきたいと思っております。今年もご指導のほどよろしくお願致します。



施設隊 陸士長 小林 興平

皆様、明けましておめでとうございます。卯年の卯の意味は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」また、その飛躍する姿から「飛躍」「向上」をもつとされています。他にも「植物の成長」という意味もあり新しいことに挑戦するのに最適な年だと言われています。

また、うさぎには跳ねる特徴があるので景気が上向きに跳ねる、回復するとも言われており縁起の良い年と言われているそうです。自分自身も今年新しいことに挑戦していきたいと思っております。今まではやるうとなかったことに積極的に参加していきたいと思っております。2022年は私自身、新隊員教育に班付として参加し、自分自身の成長にもなり、貴重な体験をさせていただいた一年でした。なので今年も仕事や私生活においても新しいことに果敢に挑戦していきたいです。今年もよろしくお願致します。